



2017年1月9日発行

2017年1月号(通算196号)

東京武蔵野多摩ワイズメンズクラブ

東京YMCA西東京センター内 〒186-0002東京都国立市東1-4-20-102
TEL 042-577-6181 FAX 042-577-5574

【2016～2017主題】

国際会長 Joan Wilson
 アジア地域会長 Tung Ming Hsiao
 東日本区理事 利根川 恵子
 あずさ部長 浅羽 俊一郎
 東京武蔵野多摩会長 山口 直樹

「Our Future begins Today」
 「Respect Y's Movement」
 「For the Future, Act Today!」
 「あずさ部は賜物の宝庫。もっと活かそうぜ!」
 「一步一步前に進もう。Yと共に!」

【クラブ役員】

会長 山口直樹
 副会長 板村哲也
 副会長 伊佐節子
 会計 宮内友弥
 書記 渡辺大輔

2017年 今月の聖句

そこで、悪魔はイエスに言った。「神の子なら、この石にパンになるように命じたらどうだ。」イエスは「人はパンだけで生きるものではない」と書いてある」とお答えになった。(ルカによる福音書4章3節～4節)

ワイズメンズクラブモットー

強い義務感をもとう 義務は全ての権利に伴う

五つの誓い

- 1.自分を愛するように隣人を愛そう
- 1.青少年のためにYMCAに尽くそう
- 1.世界的視野をもって国際親善を図ろう
- 1.義務を果たしてこそ権利が生ずる事を悟ろう
- 1.会合には出席第一、社会には奉仕第一を旨としよう

ワイズメンズクラブの目的

- 1.個人的にもまたクラブとしても、その奉仕活動を通じてYMCAの活動を支援する。
2. ワイズメンにふさわしい他の団体を支援する。
3. 地域社会や国際的な問題に関心を持ち、一党一派に偏らない正義を追求する。
4. 宗教・社会・経済・国際などの諸問題について会員を啓発し、積極的に参加させる。
5. 健全な交友関係を作り出す。
6. この協会の国際・地域・区の事業を支援する。

1月例会プログラム

強調月間：DBC、IBC
 日時：2017年1月7日(土) 13:30～
 場所：東京YMCA山手センター

- * 1月例会は在京ワイズ新年会になります。
- * 第二例会は、1月25日18:30～東京YMCA西東京センターになります。
- * ハッピーバースデー 該当者なし

12月例会報告

在籍者	13名
出席者	11名
メーキャップ	1名
出席率	92%
ゲスト	1名
ビジター	4名
メネット・コメント	0名
にこにこ	-

新年に思う

山口直樹

毎年のことだが、今年もあっという間に2016年が過ぎていき2017年の正月がやってきた。早く1年が過ぎてしまったなと思いつつも、昨年を振り返ると様々な事柄が私たちの周りに起こっている。

個人的なことだが、65歳の誕生日を過ぎすぐに介護保険証が自動的に届いた。65歳になった実感もさりながら、唐突にあなたは年寄りですよと言われることに本能的に反発を持ってしまった自分を発見したことも、新たな感覚であった。

また、あなたはこれからの人生の中で今が一番若いのですよ、という言葉も耳にした。そうだ、これからを考えた今がこれからの人生の中で一番若いのだ、今を最大限楽しまねば、と勇気づけられたりもした。今をいかに自分にとって充実した時間にするかが幸せに日々を過ごすポイントと新たな発見をし、大変わ得をした気分になった。

一方、現在の日本を見ていると、一見物質面で豊かになってきているが、心の中で必死に将来への不安と闘っている人々を見出す。ものすごいスピードで変化している社会の真ただ中において、よくわからないまま大きな不安を抱いている気がする。日本も含めて世界中で、信じられない事件が起こっている。この原稿を書いている最中にもトルコやベルリンでの悲慘なニュースが飛び込んできている。私たちの想像を超えた現実が起こっている。自分がどのように生きていくのか、その方向性を見出そうと必死で、生きるために仮想敵を作り、それに敵対することで生きる術を見出そうと必死にもがいている人の姿をなんとなく描いてしまう。地球全体がどこへ行くのでしょうか。世界で一番貧しい大統領といわれた元ウルグアイ大統領のホセ・ムヒカ氏の言葉。「私たちは発展するためにこの世にやってきたのではありません。この惑星に、幸せになろうとしてやってきたのです。」という言葉思い出した。

ワイズに所属しYMCAにかかわっていることを自覚し、まず目の前の日々の生活を心の面から豊かにしていくことに幸せになる方向性を見いだせればと思う。ワイズの役割を再考し良い方向に変革し、ともかく前に一歩ずつ歩んでいきたいと願う。今年もよろしくお祈りします。楽しい、充実したワイズにしましょう。

2016年12月例会報告

日時 12月4日13時30分～

会場 東京YMCA医療福祉専門学校

メンバー：10名、メネット：1名、

ビジター：2名、ゲスト：3名

その他：西東京センターリーダー、スタッフ

「東京YMCA西東京センターファミリークリスマスに参加して」

西東京センターのファミリークリスマスが12月4日(日)、午後1時半から東京YMCA医療福祉専門学校において行われた。今年は104名の参加者とのこと。武蔵野多摩クラブは第一例会として毎年、参加をしている。参加メンバーは麻生、伊佐、石丸、板村、大輪、清水、野尻、宮内、渡辺、山口、出沼。ゲストで東京西クラブの吉田ワイズにも手伝っていただき大いに感謝。第一部のクリスマス礼拝は学生キリスト教友愛会主事の野田沢牧師を通してイエス・キリストが私たちに残したメッセージのこと、またイエス様が生まれたクリスマスのお話を聞くことができた。メンバーによる聖書の朗読もあり、子供から大人まで一緒にクリスマスのことを考えるときが持て、大変良い時間となった。第二部はクリスマスお楽しみ会。今年初めて結成された西東京聖歌隊がオープニングで「荒野のはてに」を讃美してスタート。

トップバッターは中高生グループ活動「ティーンズ」によるミュージカル。若さいっぱいの素晴らしいミュージカルの次が、我が武蔵野多摩クラブの番。今年は「クリスマスのクイズと音楽」と題し、楽しいクイズを出しながら恒例のトーンチャイム演奏。11月30日に石丸さんのユリ・リトミック教室のスタジオで厳しい練習を行った。その成果もあり、参加者を巻き込みながら楽しい時間を作ることができたかと思う。また、いつものことながら石丸さんのユリ・リトミック教室の先生方の強力なバックアップを受けている。大いに感謝。初参加の新しいメンバーの存在も大きく、全体のレベルアップがあったと感じた。

つづいて、音読ボランティアサークル「シジュウカラ」による絵本朗読や、リーダーたちによる、参加者も全員参加する大変楽しい時間を過ごし、クリスマス会が終了した。あっという間の2時間半だった。西東京センターに連なる者たちが一緒に過ごす時間を持てることは大変素晴らしいことだと思う。ワイズもその中で更に西東京センターをバックアップしていきたい。(記録：山口 直樹)



「トーンチャイム演奏に加えていただいて」

12月になって、東京武蔵野多摩クラブが石丸由理さんのスタジオでバーベキューをやると聞いて、参加させてもらいました。先にYMCA西東京センターのクリスマス会で演奏するトーンチャイムの練習があるというので、時間をずらして行きました。まだ十数人が特訓中でした。

部屋の隅で待つつもりでしたが、一緒にやりましょうと誘われました。トーンチャイムには触ったこともないし、楽譜も読めないからと断ったのですが、出来なければやめてもいいということで、思い切って加わりました。クリスマス会まで、あと3日。練習もかなり仕上がっているのに、ここでド素人が加わるのは迷惑だろうと思いましたが、皆さん気持ちよく受け入れてくれました。

10年以上、毎年クリスマス会で演奏しているそうです。楽譜が驚異的に進化していました。

3曲練習し、BBQも楽しく終わったら、今度は、せっかくやったんだからクリスマス会でも演奏したらとの誘い。そこまでは臆が強くない。お断りしました。客演というのは、それなりの力をもっているのが常識です。それでも本番の演奏はどうなるのか、興味があって見に行くことにしました。

当日、行くと楽器に私の名前が貼ってありました。結局、舞台上がりしました。バイオリンも入って立派な演奏となり、拍手をもらいました。

最近、東京武蔵野多摩クラブは、メンバーを増やして勢いを感じます。きっとメンバー全員が人を気持ちよく囲い込むことに心を配っているのでしょう。

(東京西クラブ 吉田明弘)



[強調月間コーナー]

1月 IBC、DBC

IBC

国際兄弟クラブ(International Brother Clubs)の略で、ワイズメンズクラブが外国の特定のクラブと兄弟縁組を行い、永続的な交流を重ねる事業です。IBCプログラムを通して、国際的な友情を育てることが出来ます。相互の継続的かつ定期的なコミュニケーションがワイズメン運動の国際的な広がりを強めます。

東京武蔵野多摩クラブは、旧東京多摩クラブ時代に韓国の漢陽クラブとIBCを締結しており、近年交流が途絶えがちでしたが、2008年5月の漢陽クラブ創立50周年式典に招待を受け訪問したのをきっかけに交流を再開。また2010年8月横浜国際大会にて香港チムシャツクラブとIBCを締結、2014年には同クラブと共同でスポンサークラブとしてモンゴルウランバートルクラブの立ち上げに寄与しました。

DBC

国内兄弟クラブ(Domestic Brother Clubs)の略です。国際にはない日本独特のプログラムで、日本区が東西に分かれてからより活発になりました。東日本区と西日本区のクラブ間で締結されるのが本来の趣旨ですが、東日本区内のクラブ同士が締結することもあります。お互いに良い影響を与え合うことが出来る絶好のプログラムです。我がクラブは、2011年5月に神戸学園都市クラブとDBCを締結し毎年交互に訪問し交流を深めています。(TM)

忘年例会に参加して

大輪 匡史

2016年東京武蔵野多摩ワイズメンズクラブ 忘年会は、12月17日 17時から、会場は、定例会後、第2例会に毎回利用してる 国立駅横の居酒屋日本橋。八王子クラブからは小口さん、お客様に伊藤さん、武藤さん、瀬戸さん、ユースの永坂君、武蔵野多摩クラブのメンバーが参加されました。

山口会長の御挨拶から宴は、始まり、普段皆さんが楽しんでる居酒屋さんなので、宴会は盛り上がりました。思い出しますと、板村さん、麻生さん、大輪は、今年の忘年会から、参加させて頂き、何が何だか解らずに乗りで入会したような？

人の絆を学ぶ、素敵な会に入れさせて頂き、今では感謝してます。まあ、お酒の力は凄いですね！冗談ですが。

ワイズの在り方を考える 第2回

日 時：12月21日（水）19：00～20：00（第二例会の第7議題として）

場 所：東京YMCA西東京コミュニティーセンター 出席者：10名 進 行：板村

議 題：当クラブでできることの検討 議 事：下記の通り

- ・前回(11月9日)の会議では10月のアンケートで出された問題点と長所を整理し各メンバーの考えを全員で共有し自由討議を行った。
 - ・今回はアンケートで提起された問題点を踏まえ、まず当クラブ独自で新たに取り組めること、短期的に実施できることを模索検討した。
 - ・今回の検討に先立ち、事務局よりメンバーに「あなたはこのクラブで何をしたいですか？」とメールで問い合わせた。これは、各個人がY'sに求めるものが多様である（社会貢献、社交、自分の居場所、その他）ことと、Y'sやクラブの本来の目的・魅力が見えにくくなっていると考えられることから、それらの基本的なことを改めて問い直したものである。
 - ・今回のテーマにつき席上で提示された意見やアイディアは、理念や総論で全員が概ね一致しており、次の通りであった。
 - －いい社会、幸せな社会を作りたい。
 - －社会のため、人のために役に立つことをしたい。
 - －まず地域の中でできることから始めるのが良いのではないか。
 - －社会的弱者・支援を必要としている人との関わりが必要（子育て、認知症者支援、独居者支援、貧困家庭の子供の学習支援、子供が来たいと思う場所作り等）。
 - －YMCA行事のサポートやYMCAのOBの活躍の場の設定。
 - －無理のない範囲でできることを継続する。（無理があると長続きしない。）
 - ・しかし、限られた人材・資金（注：なし）・時間の中で、具体的に何を、どういう方法で、継続的に実行できるか（即ち各論）については今回は決定的な案は出せなかった。
 - ・そこで、江夏一彰ワイズ（長野クラブ所属）が府中市で実施中の「健康増進カフェ」を参考にして、当クラブでできることを模索することとした。（歩きながら考えることとした。）
 - ・この第一歩として、2月の第一例会で江夏氏（とその仲間）と東京YMCA西東京コミュニティーセンターの協力を得て3者共同で健康増進カフェの国立版的なものを上記センター内で試験的に実施することとし、その中身と方法論を検討することとした。
 - ・また、アンケートで指摘されたY's全体が抱える本質的な諸問題については継続的に（毎月第二例会で30分ほど）都度テーマを決めて中長期的に時間をかけて話合っゆくこととした。
- （補注：12月21日の第二例会に先立ち、19日に事務局で打ち合わせを実施。また12月23日の健康増進カフェに当クラブより4名（宮内、伊佐、板村、渡辺）が参加。）

§その他、会員の委員会等出席情報

- 12月 2日：東京YMCA西東京サポートチーム委員会（宮内）
- 4日：西東京センターファミリークリスマス（第一例会）
- 9日：西東京センターファミリークリスマス実行委員会反省会(麻生、山口)
- 14日：東京YMCA 3法人合同クリスマス礼拝（宮内、山口）
- 16日：横浜YMCAチャリティーゴルフ（宮内）
- 17日：忘年例会（第二例会）
- 19日：第二例会準備会(麻生、板村、大輪、宮内、山口、渡辺)
- 21日：臨時第二例会
- 23日：東京YMCA東陽町センターオープンハウス（渡辺）

<西東京YMCA便り>

出沼一弥

▼12月の西東京センタープログラム報告

12/2	ファミリークリスマス	「にこにこ」「ロビンソン」「TeenS」	12月例会
12/26-30	シュプールユーススキーキャンプ	尾瀬戸倉スキー場	引率：廣瀬 30名
	ユーススキーキャンプ	菅平高原スキー場	引率：出沼 39名
12/27-30	キッズスキーキャンプ	尾瀬戸倉スキー場	引率：中里 25名

▼1月の主な予定

西東京センター

1/14・15	幼児野外活動「にこにこ」1泊会（妙高高原ロッジ） 小学生野外活動「ロビンソン」1泊会（妙高高原ロッジ）
1/15	知的障がい児・者 余暇活動「あおぞら・つばさの会」1月例会
1/22	知的障がい児・者 余暇活動「シャベルズ・いづみの会」1月例会 軽度発達障がい児 野外活動「Smile」 1月例会
1/29	中高生野外活動「TeenS」1月例会

▼活動紹介

西東京コミュニティーセンターで行っている「定例プログラム」について紹介をしていきます。今号は知的障がい児・者 余暇活動「シャベルズ・いづみの会」についてです。

「シャベルズ・いづみの会」は、立川YMCAから36年の歴史ある知的障がい児・者を対象とした余暇活動を目的とする活動です。始めは小学生以上を対象とした「いづみの会」でした。しかし当時立川地域で同じような余暇活動をしている団体は多くありませんでしたので、登録のキャンセル待ちが100名以上となりました。そこで、高校生以上を対象とした「シャベルズ」が始まりました。新たな活動形態として農作業を中心とし、みんなでシャベルを持って集まったことが、名前の由来となっています。

現在はシャベルズ・いづみの会として中学2年生から40代の方までが在籍しています。活動は毎月1回公園に行ったり、池袋や「としまえん」など街に出かけたり、一人ひとりの興味に合わせて過ごしています。春と秋に1泊会、夏は山中湖センターで3泊4日のキャンプを行っています。メンバーは普段、学校に行ったり仕事をしたりしています。その中で、私たちと同じように難しさや辛さを感じている方もいます。そんな日常から少し離れて、楽しさや喜びを活動を通して得ることで、日常に戻った時の活力になればと考えています。

一緒に過ごすパートナーとしてボランティアリーダーが欠かせない存在です。週に1回リーダー会を行い、例会が豊かな時間となるよう話し合いをしています。リーダーは学生のみならず、社会人になってもこの活動に力を注いでくれる者もいます。リーダーは、プロフェッショナルではなく、初めて障がい者と呼ばれる人と関わる者がほとんどです。最初はどうしたらいいかわからないこともありますが、関わりの中で相手を知り、一緒に過ごす楽しさや喜びを知っていきます。このことはリーダー自身にとって新しい価値観となり、かけがえのない経験になります。

シャベルズ・いづみの会は、メンバーはもちろんリーダーにとっても楽しくて安心して居場所となることを願って取り組んでいます。

(ディレクター 廣瀬匠)

1～2月、その他の予定

1月	2月
•7日(土) 在京ワイズ新年会 (山手センター：12:30～15:30)	•4～5日 東西日本区交流会(東山荘)
•25日(水) 第二例会	•8日(水) 第一例会 (西東京センター「健康増進カフェ」19:00～)
	•18日(土) EMCシンポジウム (山手センター：13:30～)
	•22日(水) 第二例会